

平出 敦

近畿大学医学部救急医学 主任教授

高齢者の救急患者の実態に関する調査研究

高齢者に配慮できる救急システムを構築していくために必要な基礎データを、集積して提示するのがこの研究の目的である。救急システムの効率を反映する病院外心停止患者の記録集計データをもとに、質が保証された全国データ、大阪府のデータ、大阪市のデータを用いて検討を進めた。

病院外心停止患者数は、11万人を越えて年々増加している。うち65歳未満はおよそ3万人であり、大きく変化していないが、65歳以上の患者は、その2倍以上にのぼり、かつ急増している。年齢別発生率で検討すると、年齢が進むに従って著しく増加するが、男女差が大きく男女別に検討する必要がある。こうした差異の根底には、性ホルモンの影響がある。救命に関しては、胸骨圧迫のみの蘇生処置の推進と、PAD (Public Access Defibrillation) が重要である。PADが介護施設で11%実施されていることは注目される。